

○足利町に於ける中央大学辞達学会 同会は時勢に鑑み各地に

291 足利町における中央大学辞達学会

〔法学新報〕第21卷9(246)号 明治44年10月1日

於て講演会を開催するに決し去る八月二十八日午後五時よりト部、岡田(泰蔵)両學員指導の下に栃木県足利町足利座に於て之か第一回を開催せり先づ委員渡辺英三氏は同会の沿革、現況並に地方講演開催の理由を簡単に説明して本会開会の趣旨を陳へられ次に学生山口源二郎氏は「日米の關係と經濟」と題し「自己は在米十有余年聊か米國民の商業に工業に將又農業に於ける状態を知るものなり」と前提し彼國民の各事業に対する觀念及其活動状態を説き「彼等は常に機械を応用し勞力を省き以て文明の利器を適所に利用し經濟關係をして益經濟的ならしむ」と豊富なる实例を以て其經驗の一端を述へられ一転して我國民の其れの如くならざるを慨し而して「我国土は米國の其れと比すれば彼の如く広大且豊富なるものにあらず日米の懸案たる移民事件の如きも実は我國民の渡米する者の多くは其人物學識等の劣れるに因る如かず各府県に於て拳金をなし以て其府県下有為の士をして特に専門教育を受けしめ根本的に智識の普及と品性の改善に勉めんには」と説き「其結果は自ら兩國間の親密を來たし延て日米間の經濟關係をして旧套を脱せしむることを得て以て世界の宝库たる地に我國民の自由に入ることを得るに至り益我國勢を發展せしむるものなり」と論結し地方民諸士の奮勵を望むと陳へ拍手の間に降壇次に「人為法論」なる題にて學生米津藤一氏は「凡そ法律は此復雜なる社会状態に於て「我」を限界するものに外ならず」と説き「広義の法に自然法なるものと人為法なるものとあり而して世人の多くは惡法も亦法也法に規定なきか故にとの口実の下に不徳の事をも敢行し恬

として恥ぢざる者あり」と慨し一転して「法は活物にあらずして死物なり」と断し更に「現行我国の人為法に對する男子の要求として既に各人は平等なるもの其間何等の異なる所あるを見ざるにも拘らず衆議院議員の被選挙権の貴族院の其れに於けるか如くならざるは不合理の甚しきものなり」と説破し更に「女子の叫として所謂姦通の場合に於て男に厚うして婦に冷酷なるは道理に反するものなりとて有妻姦を論する痛切を極め次て「子の悲歎として法は不義の快樂に原因したる子を私生子となし其不義者には何等の苦痛を与ふることなく唯罪なき子をして終世汚名を蒙らしむ是れ亦背理の甚しきものなり」と論し「既に人為法は斯の如く時に道義と相容れざることあり間悪徳漢の乗する所となりて害毒を世に流すこと甚しく良民をして安眠するを得さらしむるに至る左れば吾人は一面法の改善を計ると共に益各人の道義觀念を向上し是等人為法の欠点を補ふに勉めざるへからず」と結論す熱烈の弁能く人を動かし拍手暫しか程止むことなかりし次に「日本国民の二大覚醒」と題し學員渡辺英三氏は「我国目下の状態は覚醒を要すること頗る多し就中産業上の覚醒と教育上の覚醒とは其最も急務なるものなり」と前置し「歐洲各国の莫大なる富は其一は産業の發達にして他の一つは殖民の成功にあり」と論し「産業の發達は全く各種の機械の發明に基因す」とてアダム、スミスの一度富國論を公にして商工業の自由独立を唱へ精神的方面より又ワットは蒸汽機関を發明して何れも産業上の一大革命を起したることを述へ其恐るべき産業革命は千手觀音も何かあらんとて農業上の影響及工業上の

影響等を引例し「一國の富強は機械の發達に比例す」と断し幾多各国の例を以て詳説し更に「本邦農業及産業の将来を思へば農業は衰退を來し歸する所他の産業に頼らざるへからず而して産業上の本邦の大敵は世界の各国最大の得意市場なる支那にあり各国の競争の劇しきとともに機械の發明及其応用は本邦目下の最大急務なり」と痛論し次に教育上の覚醒の必要殊に殖民に關する教育の方針を説き「英國国民の殖民に付ての態度、英國殖民地の特色及英國人の殖民上の功績又は各国の殖民状況等に付き論究せられ本邦の人口問題に及び「人口増加の結果は各種産業の困難、生存競争の激烈、生活難の圧迫及貧民階級の激増を來すものなり」とて之に解決を与ふるの方法は交易工業の發展と殖民との二あるを論し更に「今日に至りて自国外に広大なる屬地を得る能はず故に世界何れの國たりとも滿韓？南洋？米大陸？可なる所に向はんには世界は尚多くの人口を收容するに足るもの而して自國の利益を本位とし他國の利益を妨げざる限り各国に移民すへし」となし殖民的國民の要格を述へ延て教育の必要に及へり氏は更に歩を転して「今や我國民は内に産業を興し外に殖民政策を實行し日本民族永久の發展を計らざるへからず」となし吾人青年の責任重きを論じて拍手の中に降壇氏の卓越なる觀察と奇抜なる引例は聴者をして思はず扼腕切齒を禁ぜざらしめ又屢人の頤を解かしめたり次て「立憲的國民之要格」と題し學員横田稔氏は「凡そ武力を基礎とせる武斷專制は其國民の増加に比して其武力を増加せしめざるへからず今國民の多数意思を基礎となす政治は國民の悦服し國民的勢力を發揮する

に至り又自ら政党なるものを生ず今若し是等の者か其政治に対し単に承認又は否決のみを事としたらんには其結合は望むべからずして四分五裂するに至る之に反して若し上は至尊の御意を体し下は国民の利害休戚を重んずるに於ては自ら是等の人人は二分派を生じて一は其政治を可とし他は之を否とし或は又其欠点を指摘して以て民意の在る所を示し延ては政府の実権も亦此所に帰するに至るものなり然かも尚欠点あるを免れずして多数階級の種種なる利害感情及思想等よりして多数専制の府となり一面に於ては所謂社会主義をも生ずるに至るものなりとなし更に政党と国家政府と一致せしむるの要あるを説き議院政治に及びて其指導者は選挙人によりて而して国家の進歩に従ひて益鞏固なる政府の要あるを述へ議院政治に論及し其弊害として議院政治は動搖不定なること、遠図長計を欠き国家全体の利を失すること偏頗不公平私利心を奨励すること果斷の行為に乏しきこと等を挙げ終には衆愚の政治となるに至るものなりとて英雄等各国の国家社会政策を引照批評し「要するに国民は須らく人物と政党とを鑑識するの能力を供へ加ふるに向上の実行力を有せざるべからずとなし今や我国も第一等国の列に入りたるもの更に世界を相手として立つの大覚悟を有せざるべからず」と論理整然態度真摯滔滔一時間余に渉る雄弁に加ふるに其特徴ある声は痛く聴者を感動せしめ満場の拍手に送られて降壇學員卜部喜太郎氏は「人道と法律」と題し開口一番世俗法律とし云へは恰も理窟の具たるか如く思惟するも是れ誤解の甚しきものなりと前提し「若し夫れ法律殊に我民法法典を熟読せんか聖書教典又は

倫理道德の教科書の如く皆吾人人類の金科玉条たるべき文字より成れるものなり」となし民法と人間の一生一代に付き分て生前、生後及び死後となし民法第一条は一切衆生壽命成仏なる教へに相当すべきもの換言すれば吾人は身の貧富貴賤を問はず生るれば皆平等なるものなりとて順次各条を指摘すると同時に痛切なる例を以てし更に進んで生前の場合―胎児の有する特権―相続権、損害賠償請求権等に付き詳説せられ一転して凡そ不義不徳の者の世に容れられざると同一軌に斯る者に対しては法律には生理の方法ありとて失踪宣告のある所以を説かれ死後に対しては法は遺言の設けあり是れ其人の功績の表彰せらるるに比すべきものなりと断し幾多の引例を以てし「故に吾人は聖人君子の指先きにも相統すべく教へらるるもの決して法は三百屋の具にあらずして猶ほ聖典其他の倫理道德に関する教科書等の道德に於けるか如きもの各人は法律の意のある所を体して道を修め業を励むに努めざるべからずと論し更に未成年者、禁治産者、婚姻及夫婦関係に関する点に付き滔滔一時間半に亘りて論述せられ其潑潑たる弁適切なる引例は聴者をして聖堂に道を聞くの感あらしめたり次に「国と経済」と題して學員岡田泰蔵氏は先づ欲望に付き国家も亦吾人の其れに於けるか如きものなりと説き起し経済と国との関係、吾人と経済との関係に及び是等の關係を知るには須からず先づ吾人の社会に於ける地位を解するの要ありとなし吾人は家族にあらざれば戸主従て町村民―郡民―府県民―国民―世界人類の一員なり而して大和民族の結合と忠と考との配合は是れ帝国の国体なり是れ我大和民族の元氣

の源泉にして又文明の根柢なり又国を離れて吾人の生命なしと論し富国強兵を説くこと密「強兵に付きては我帝国は二大戦役に勝を占め是等未曾有の大勝は世界各国の驚愕する所彼等は心理学上又科学上武士道の為めに勝ちたるものなりとせり然れとも富に対しては遺憾なから等しく一家一国の為め大に吾人の富力を増進するに勉めざるへからざるの位置にありとて統計を引照し各国民一人の平均有する富を比較し我國民一人に付四三三円なるに露五五〇円独、^(マ)塊、以人等は各一人に付一〇〇〇円英、米、仏等に至りては二〇〇〇円の割合なり而して富と土地の広狭との關係を述へ富国に対し其報酬の大なるを説き更に我國貿易に及んで輸出四億中生糸絹織物等約其の三分の一を占む左れば絹糸事業は我國貿易即ち富の消長に関する多大なるものなりとなし又経済は金錢に關係し金錢關係は其利害大にして時に人道と背馳することあり國家の發達を期するの要は国と經濟に付きて吾人か自覺して各人の幸福を計るにあり而して國の發達と相待ちてこそ初めて五箇条の御誓文に従ひ奉るを得るなりと結論せらる其沈著なる弁と該博なる学識は聴衆の敬服せる所時正に十一時四十分横田幹事は茲に閉会の辞を述ふ当日の聴衆千六百有余場内為めに立錫の余地たになきの盛会にして一同最終迄熱心に傾聴せり聞斯の如きの盛会は同座設立以来未曾有のことなりと亦以て其盛況を窺ふへし(委員報)